－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学						
担当教員	小林　北斗					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33110
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、またそれらを通じて自己や他者の理解を促進する。
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種と関わっていく上での留意点についても触れていく。
到達目標	・精神疾患の基礎的知識を説明することができる ・医療の現場で活かされている臨床心理学的知識，およびアプローチについて説明することができる ・自分自身や周囲の人々のメンタルヘルスについて考えることができる
授業計画	第１回　医療心理学　本講義についての概要 第２回　医療現場において心理職に期待されること 第３回　医療現場で求められる知識①　精神疾患 第４回　医療現場で求められる知識②　発達障害 第５回　医療現場で求められる知識③　薬物療法 第６回　医療現場で用いられる心理技法①　心理アセスメント（知能検査） 第７回　医療現場で用いられる心理技法②　心理アセスメント（質問紙法） 第８回　医療現場で用いられる心理技法③　心理アセスメント（投映法） 第９回　医療現場で用いられる心理技法④　認知行動療法 第１０回　医療現場で用いられる心理技法⑤　認知行動療法（Ⅱ） 第１１回　医療現場で用いられる心理技法⑥　その他の心理療法 第１２回　医療現場で用いられる心理技法⑦　その他の心理療法（Ⅱ） 第１３回　他職種との連携 第１４回　講義全体の整理とまとめ 第１５回　講義の理解度の確認　試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・新聞やテレビなどで取り上げられているメンタルヘルスなどについて積極的に調べてほしい。 ・講義で話された内容の中で自分の興味のある内容について、自分で調べる姿勢を持ってほしい。
授業方法	適宜、資料を提示し，その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらう。
評価基準と評価方法	試験60%、平常点（質疑応答など授業への積極的参加）30%、ミニレポート10%で評価する。
履修上の注意	・私語厳禁 ・病院臨床に対して何らかの興味・関心を持っている学生の受講を望む ※質問は授業の前後で受け付けます。
教科書	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。
参考書	参考文献はその都度、講義中に紹介する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P7304A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	心理の専門的な英文を数多く読むことで、心理学の基礎的な知識をつけることができるとともに、長文の専門的な英文に対する苦手意識をなくすことができる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10.Developmental psychology: Bowlby's theory 11.Developmental psychology: types of attachment 12.Perception: Top down process 13.Perception: Bottom up process 14.Perception: Development 15.Perception: Nature-Nurture debate
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。 授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（３時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された点の復習等（１時間以上）。
授業方法	論文講読
評価基準と評価方法	課題（７０%）、授業態度（３０%） 課題：授業での課題発表を総合的に評価する。 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。
履修上の注意	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。 英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。 大学院入試対策授業であり、一定レベル以上の学力、英語力、及び、やる気がないとついていくことが難しい。
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P7304B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策としての授業
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	大学院入試レベルの専門英語問題が解けるようになる。心理学の英語の長文に対する苦手意識をなくすことができる。
授業計画	1.オリエンテーション 2.Perception: Face recognition & Agnosia 3.Learning: Classical conditioning 4.Learning: Operant conditioning 5.Learning: Conditioning and behavior of animals 6.Social psychology: Conformity 7.Social psychology: Conformity to majority 8.Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9.Social psychology: Obedience to authority 10.Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11.Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12.Psychopathology: Biological approach 13.Psychopathology: Psychodynamic approach 14.Psychopathology: Behavioral approach 15.Psychopathology: Cognitive approach
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。 授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（３時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された点の復習等（１時間以上）。
授業方法	論文講読
評価基準と評価方法	課題（７０％）、授業態度（３０％） 課題：授業での課題発表を総合的に評価する。 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。
履修上の注意	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。 英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。 大学院入試対策授業であり、一定レベル以上の学力、英語力、及び、やる気がないとついていくことが難しい。
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P31020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。
到達目標	1.カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。 2.コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。 3.カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　講義についての概要 第2回　「カウンセリング」とは 第3回　カウンセリングの基本①　「コミュニケーション」とは 第4回　カウンセリングの基本②　コミュニケーションのつながり 第5回　傾聴技法①　「傾聴」とは 第6回　傾聴技法②　言葉での応答 第7回　傾聴技法③　言葉以外での応答 第8回　傾聴技法④　まとめ 第9回　質問技法①　2種類の質問 第10回　質問技法②　想像と質問 第11回　傾聴技法と質問技法 第12回　カウンセリングの実践①　ものの見方 第13回　カウンセリングの実践②　相互作用 第14回　カウンセリングの実践③　まとめ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：90分）
授業方法	資料を提示しながら講義を進めつつ、ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	・平常点　15%：各回提出のリアクションペーパーなどにより評価する（到達目標1.に関する到達度の確認） ・演習やディスカッションへの取り組み　35%：（到達目標2.および3.に関する到達度の確認） ・試験　50%：※2/3の出席を満たさない者は受験資格を失う（到達目標1.に関する到達度の確認） 課題に対するフィードバック ・リアクション・ペーパーのコメント・質問については翌週の授業で紹介・説明する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。
教科書	なし
参考書	・『暮らしの中のカウンセリング入門　心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのカウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572

\-　　-　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P31020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。
到達目標	1.カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。 2.コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。 3.カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　講義についての概要 第2回　「カウンセリング」とは 第3回　カウンセリングの基本①　「コミュニケーション」とは 第4回　カウンセリングの基本②　コミュニケーションのつながり 第5回　傾聴技法①　「傾聴」とは 第6回　傾聴技法②　言葉での応答 第7回　傾聴技法③　言葉以外での応答 第8回　傾聴技法④　まとめ 第9回　質問技法①　2種類の質問 第10回　質問技法②　想像と質問 第11回　傾聴技法と質問技法 第12回　カウンセリングの実践①　ものの見方 第13回　カウンセリングの実践②　相互作用 第14回　カウンセリングの実践③　まとめ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：90分）
授業方法	資料を提示しながら講義を進めつつ、ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	・平常点　15%：各回提出のリアクションペーパーなどにより評価する（到達目標1.に関する到達度の確認） ・演習やディスカッションへの取り組み　35%：（到達目標2.および3.に関する到達度の確認） ・試験　50%：※2/3の出席を満たさない者は受験資格を失う（到達目標1.に関する到達度の確認） 課題に対するフィードバック ・リアクション・ペーパーのコメント・質問については翌週の授業で紹介・説明する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。
教科書	なし
参考書	・『暮らしの中のカウンセリング入門　心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのカウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	カウンセリング上級演習							
担当教員	坂本　真佐哉						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3303B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4		単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングの理論にもとづいた高度なコミュニケーション・スキルを身につける。
授業の概要	カウンセリングについて理論的に学びながら、応答技法を中心に体験的に学ぶ。ロールプレイでの会話実践を録音し、逐語録で振り返るとともにディスカッションを通して、さまざまな応答の可能性について相互にディスカッションしながら学ぶ。 大学院への進学や就職先で活かすための高度なコミュニケーション・スキルを習熟することを目的とする。
到達目標	１．カウンセリングで用いられる基本的な技法について説明できる。 ２．知識として学んだ応答技法を会話の中で使いこなし、アクティブ・リスニングができるようになる。 ３．会話のプロセスについて振り返り、流れについて客観的立場より解説できるようになる。
授業計画	第１回　　授業のガイダンスおよびカウンセリングの倫理について 第２回　　ベースラインとしてのロールプレイ実践と記録 第３回　　かかわり技法と場の設定 第４回　　応答技法（１）非言語的反応と反映技法の基本 第５回　　応答技法（２）反映技法を深める 第６回　　応答技法（３）質問技法の基本 第７回　　応答技法（４）より積極的に傾聴する 第８回　　応答技法のまとめとロールプレイ記録 第９回　　ベースラインの逐語録との比較およびディスカッション 第１０回　介入技法（１）対決技法について学ぶ 第１１回　介入技法（２）動機付けの低い状況への理解と対処 第１２回　介入技法（３）葛藤状況への対処（個人を対象としたアプローチ） 第１３回　介入技法（４）葛藤状況への対処（複数を対象としたアプローチ） 第１４回　介入技法のまとめとロールプレイ記録 第１５回　振り返りと総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：録音したロールプレイを逐語録におこし、レポートを作成する（学習時間：90分）
授業方法	講義とロールプレイおよびグループ・ディスカッション
評価基準と評価方法	平常点（ロールプレイやディスカッションへの参加態度など）50%、逐語録やレポート課題50%
履修上の注意	１．グループを作り、ロールプレイを中心に学ぶので、遅刻・欠席を極力しないこと。（欠席３回で不合格とします） ２．ICレコーダーなど、録音できる携帯機器を準備し、操作に習熟しておくこと。 ３．逐語録の作成やレポートの作成など、時間と手間のかかる作業を行う。
教科書	なし
参考書	必要に応じて紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本社会における家族の心理の理解
授業の概要	現代日本の家族は，社会と密接な関係を保ちつつ変化している．たとえば，少子化，晩婚化，離婚の増加，母親の就労，高齢化などである．本講義では，夫婦関係，親子関係を中心に，それらの現代的特徴と心理的影響について学習する．
到達目標	家族の抱える問題は，家族内だけではなく現代社会と密接に関連することを理解すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション　家族の定義，普遍性と特殊性 第２回　恋愛と結婚 第３回　結婚難と結婚への志向性低下 第４回　夫婦の人間関係 第５回　個人化、個別化 第６回　子をめぐる大人同士の関係 第７回　育児ストレス 第８回　子どもにとっての家族 第９回　子どもの心の問題とその解決 第１０回　食習慣にみる家族関係 第１１回　住まい、地域社会と家族関係 第１２回　家庭と経済 第１３回　高齢社会の中の家族 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読んで予習。 授業で取り上げなかった、コラムについて、各自で学習
授業方法	講義形式 （アクティブ・ラーニングを一部含む）
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）３０％，　定期試験７０％
履修上の注意	座席指定
教科書	「学びを人生へつなげる　家族心理学」　土肥伊都子［編著］　保育出版社
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33120
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	学校で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めることを目的とします。 いじめや不登校などの教育的課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。スクールカウンセラーによるそれらの課題への介入についても学びます。
到達目標	学校教育にかかわる諸問題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。
授業計画	第 1回　導入　～集団としての学校～ 第 2回　学校集団の心理(1)　～“空気”としての集団～ 第 3回　学校集団の心理(2)　～集団と個人～ 第 4回　いじめの心理(1)　～いじめの定義と実態、対策の変遷～ 第 5回　いじめの心理(2)　～いじめに関する主要な理論的モデル～ 第 6回　いじめの心理(3)　～集団現象としてのいじめ理解と対応の可能性～ 第 7回　不登校の心理(1)　～不登校の定義と実態、対策の変遷～ 第 8回　不登校の心理(2)　～不登校というつながり方～ 第 9回　不登校の心理(3)　～不登校の終わり～ 第10回　学ぶことの心理(1)　～情緒的体験としての学び～ 第11回　学ぶことの心理(2)　～関係のなかでの学び～ 第12回　学ぶことの心理(3)　～学ぶための環境～ 第13回　スクールカウンセラーの仕事 第14回　調査実践課題発表 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1）授業内で実施したワークのまとめ発表用資料作成（90分×2回） 2）調査実践課題とその発表用資料作成（90分×2回） 3）授業内で紹介した文献購読とレポート作成（90分×2回） 4）「素材カード」作成（90分×4回） ※ 1）から 3）から１つ以上を選択、4）は任意選択とします。
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加・貢献、授業レポート）　40% 課題（1)授業内ワークのまとめと発表、2)調査実践とまとめの発表、3)レポート作成、4)素材カード）　30% 期末試験　30% ※ 課題については、1）から 3）から１つ以上を選択すること。4）は任意選択とします。
履修上の注意	授業で学んだことを、日常生活や学外実習での経験と結びつけ理解するように、また、新たな疑問をみつけさらに学びを深められるようにしてください。
教科書	なし。 毎回資料を配布します。※過去の資料はマナバから取得可能です。
参考書	授業内で紹介します。

－　　　－　　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学						
担当教員	陳　香純					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1203A
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	人間を含む動物が,それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎過程を扱う。
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき,その多くが学習過程に依存していることに気付く。人間が主体的に環境,とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し,抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では,これら2つの条件づけを中心に,行動のメカニズムを探っていく。
到達目標	・人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解できる。 ・2つの条件づけの基礎過程を理解できる。 ・一人ひとりの日常的な行動を学習心理学の視点から見つめることができる。
授業計画	1. オリエンテーション：学習心理学とは何か 2. 生得的行動 / 様々な行動と学習との関わり 3. 古典的条件づけ1：馴化と鋭敏化 4. 古典的条件づけ2：獲得過程と刺激般化 5. 古典的条件づけ3：消去と自発的回復 6. 古典的条件づけ4：信号機能 7. 古典的条件づけの応用 8. オペラント条件づけ1：効果の法則と参考随伴性 9. オペラント条件づけ2：強化 10. オペラント条件づけ3：消去と弱化 11. オペラント条件づけ4：刺激性制御 12. 応用行動分析学1：DVD学習(応用行動分析の現場について) 13. 応用行動分析学2：介入計画および実施方法 14. 様々な学習 / トレーニングについて 15. 定期試験実施とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを積極的に考える。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点30%(課題や小テストを行う) 定期試験70%
履修上の注意	私語など他の受講生の迷惑となるような行為を禁止する。
教科書	随時プリントを配布する。
参考書	実森正子・中島定彦 (2000). 学習の心理―行動のメカニズムを探る. サイエンス社 中島定彦 (2002). アニマルラーニング―動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版 杉山尚子 (2005). 行動分析学入門―ヒトの行動の思いがけない理由. 集英社新書 奥田健次 (2012). メリットの法則―行動分析学・実践編. 集英社新書

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	1.心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 2.グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 3.調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門 – 心の問題を理解するための最初歩　北大路書房 永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? – 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

－　　　－　　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	1.心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 2.グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 3.調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 　　　　本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 　　　　　本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門 － 心の問題を理解するための最初歩　北大路書房 永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? － 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	1.心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 2.グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 3.調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	授業計画 第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門 – 心の問題を理解するための最初歩　北大路書房 永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? – 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

-　　-　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	1.グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 2.調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 3.心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。 4.調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

-　　-　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	1.グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 2.調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 3.心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。 4.調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	1.グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 2.調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 3.心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。 4.調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20% 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	松元　佑					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	行動観察法について学ぶなかで、心理学における研究の取り組み方や考え方について理解すること。
授業の概要	この授業では、行動観察法を習得することを目的とする。 具体的には、授業で学んだ行動観察法をグループ演習などで取り組んでいき、観察したものを分析し、レポートとしてまとめてグループ発表をしていく。
到達目標	行動観察の目標設定をして、実際に観察をする。観察したものは分析し、考察をしてレポートとしてまとめることが出来るようになる。
授業計画	第1回：行動観察法について（授業の概要と進め方について） 第2回：心理学における観察法とは 第3回：時間見本法の理論と手法 第4回：事象見本法の理論と手法 第5回：参与観察の理論と手法 第6回：子どもの発達研究のおける観察 第7回：行動観察の実施について（観察テーマの設定と予備観察、実施の留意点） 第8回：データのまとめ方①（信頼性、妥当性と研究倫理について） 第9回：データのまとめ方②（基本的な統計とレポート作成） 第10回：時間見本法の実践①（練習課題の実施） 第11回：時間見本法の実践②（グループ発表、振り返り） 第12回：事象見本法の実践①（練習課題の実施） 第13回：事象見本法の実践②（グループ発表、振り返り） 第14回：各グループにおける行動観察の実施 第15回：これまでの講義のまとめとグループ発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書以外にも心理学の研究方法に関する書籍を読んで、研究方法について学習しておくこと。また、グループ課題を実施するため、グループのメンバー全員が観察方法や手順を熟知するために、授業の復習をしておくように。
授業方法	1回目から9回目までは基本的に講義形式を用いる。10回目から15回目までは3人1組のグループで課題に取り組むこととする（グループ演習）。具体的には、グループで取り組んだ課題のデータを分析し、まとめて授業内でグループ発表を実施する予定である。発表したものはレポートとして提出する。
評価基準と評価方法	平常点（練習課題や質疑応答等）40%：平常点は講義への参加・授業態度、練習課題の取り組み方を元に算出する。 課題レポート60%：課題レポートは第15回目のグループ発表をレポートとしてまとめたものとする。
履修上の注意	授業の配布資料は、各回の出席者のみ配布する。 欠席した者は、次回の授業で配布する。（担当教員に申し出ること。） グループ演習を実施するため、協力して課題に取り組むこと。 15分以上の遅刻は2分の1欠席として計算する。 授業計画は受講生の理解度に合わせて適宜変更する。
教科書	
参考書	『心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方』、松浦均・西口利文編、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0290-3 『心理学マニュアル 観察法』、中澤潤・大野木裕明・南博文編、北大路書房、ISBN4-7628-2076-8

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心の医学						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学に関連が深い医学領域である、精神疾患・心身症・向精神薬について学ぶ。
授業の概要	精神医学・心身医学・精神薬理学といった分野は、心理学との関連が極めて深く、心理学の学びが大いに活用される分野である。また、これらに関する知識は医療領域のみならず、教育、福祉、司法などの心理学に関する様々な分野での心理臨床において必要とされる。にもかかわらず、心理職の多くがこうした知識を十分に身に着けているとは言い難く、また患者本人やその家族、その他の関係者の理解も極めて乏しいと言える。本講義では、精神医学・心身医学を概観した上で、代表的な精神疾患・心身症について学習する。また、向精神薬について学ぶ中で、各疾患への対応についても理解を深める。
到達目標	1.精神疾患と心身症の違いを説明できる。 2.代表的な精神疾患および心身症について、その症状や対応について説明できる。 3.代表的な向精神薬について、その特徴や違いについて説明できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション、心の問題と心理学・医学、精神医学総論 第2回　統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群 第3回　抑うつ障害群、双極性障害および関連障害群 第4回　不安症群/不安障害群 第5回　強迫性障害および関連障害群、心的外傷およびストレス因関連障害群 第6回　神経発達症群/神経発達障害群 第7回　心身医学総論 第8回　消化器系の心身症 第9回　疼痛性障害、神経・筋肉系の心身症 第10回　循環器・呼吸器・アレルギー系の心身症 第11回　内分泌・代謝系の心身症 第12回　心身症の治療 第13回　向精神薬①　抗精神病薬・抗うつ薬 第14回　向精神薬②　抗不安薬・催眠鎮静剤 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	時間の都合上、すべての精神疾患および心身症について学習することはできないので、講義で扱わない内容については各自で書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：180分）
授業方法	資料を提示しながら講義を進める。（一部の精神疾患および心身症については、アセスメント法や治療法を体験する演習も行う）
評価基準と評価方法	・小レポート40%：各回提出のリアクションペーパーにより受講態度および理解度を評価する（到達目標1.～3.に関する到達度の確認） ・試験　60%：※2/3の出席を満たさない者は受験資格を失う（到達目標1.～3.に関する到達度の確認）
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次回の授業までに必ず本人が受け取りにくること。
教科書	なし
参考書	・『公認心理士必携　精神医療・臨床心理の知識と技法』、下山晴彦・中嶋義文、医学書院、ISBN 9784260027991 ・『最新医学 別冊　新しい診断と治療のABC78 精神8　心身症』、久保千春、最新医学社、

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P01010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学入門（特に臨床心理学領域）
授業の概要	日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事象について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めることを目的とします。 身近な出来事や社会的に注目されている問題について、臨床心理学的にはどのように理解され扱われているかを学びます。心理学を活かした職業や、心理学が社会のなかでどのように活かされているのかについても学びます。 学校で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めることを目的とします。 いじめや不登校などの教育的課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。スクールカウンセラーによるそれらの課題への介入についても学びます。
到達目標	身近な出来事や社会的現象について、臨床心理学的な観点から考え説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。
授業計画	第 1回　導入　～心のふしぎ道の歩み方～ 第 2回　心のしくみ(1)　～なぜうっかりしてしまうのか～ 第 3回　心のしくみ(2)　～夢うらないは本当か～ 第 4回　心のしくみ(3)　～なぜ自分にうそをつくのか～ 第 5回　心のそだち(1)　～みんなおっぱいで大きくなった～ 第 6回　心のそだち(2)　～自分探しってどういうこと？～ 第 7回　心のそだち(3)　～最初の自分になれるまで～ 第 8回　心をはかる　～心の重さをはかる方法～ 第 9回　心をわかる(1)　～心を病むとはどういうことか～ 第10回　心をわかる(2)　～心はどのようにして癒えるのか～ 第11回　心のつながり(1)　～心をつなぐ手段～ 第12回　心のつながり(2)　～つながりの破壊としての犯罪～ 第13回　心のつながり(3)　～集団の心とその病～ 第14回　社会のなかの心理学 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で紹介した文献購読とレポート作成（90分×2回） 「素材カード」作成（90分×4回）
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加・貢献、授業レポート）　40% 課題（レポート作成、素材カード）　30% 期末試験　30%
履修上の注意	授業で学んだことを、日常生活や学外実習での経験と結びつけ理解するように、また、新たな疑問をみつけさらに学びを深められるようにしてください。
教科書	なし。 毎回資料を配布します。※過去の資料はマナバから取得可能です。
参考書	授業内で紹介します。

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	子育て支援の心理学							
担当教員	榊原　久直						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3～4		単位数	2.0

授業のテーマ	子育てとその支援について，社会・地域・個人の観点から基礎的な知識を学ぶとともに，子育ての中で生じる感情について考える。
授業の概要	子育てに関した発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら，子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	1.子育てやその支援をする上で必要となる資源（機関や法律など）についての知識を持ち，人に説明できる。 2.子育てという日常の営みが持つ楽しさと苦しさをどちらも理解することができる。 3.子育て支援について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子育てを支援すること～ 第2回：妊娠から出産まで　～親はいつから親になるの？～ 第3回：乳児の子育て①　～子どもに心はいつから宿るの？～ 第4回：乳児の子育て②　～ママだから子育てができるの？～ 第5回：家庭の中で生じる困難さ①　～“虐待”してしまう想い～ 第6回：家庭の中で生じる困難さ②　～子育てにパパって必要？～ 第7回：子育てを取り巻く環境　～育て方と働き方～ 第8回：幼児の子育て①　～自分の形ができ始める頃～ 第9回：幼児の子育て②　～家庭以外の子どもの過ごす場ってどこ？～ 第10回：ふりかえりと中間試験 第11回：子育て支援における“聞き方”を学ぼう 第12回：“ほどよい”子育てについて考えよう 第13回：セラプレイ的遊びから学ぶ親子の関係支援 第14回：子どもに必要な安心感　～アタッチメントと安心感の輪①～ 第15回：親だって必要な安心感　～アタッチメントと安心感の輪②～
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して，参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに，子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／中間試験（30%）／期末レポート（40%） ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても，重要な内容は適宜紹介と振り返りを行う。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する
参考書	大豆生田啓友・太田光洋・森山史朗（編）（2014）『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房. ISBN：978-4-623-06948-4

- - -

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉　征慶					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	「臨床心理士」「シニア産業カウンセラー」の資格ホルダーが、実際に「カウンセラー」として行っている活動内容と、その活動の背景にある心理学的知見と労働衛生行政の動向。
授業の概要	カウンセラーが行う「メンタルヘルス教育」や「メンタルヘルス事例対応」の実例を学ぶ。また、体験学習を行いながら「カウンセリングの基本スキル」を習得する。また背景知識として、主なキャリア発達理論、労働衛生行政の動向について学ぶ。
到達目標	産業カウンセラーの主要な業務が、「教育とカウンセリング」であることが理解できる。また、カウンセリングの基本となる「相手をわかる」ための「傾聴スキル」の基本が身につく。様々なチェックリスト等を用いることで、自分自身についての理解が深まる。また、これから社会に出て働く上で大切な、いくつかのキャリア発達理論や労働衛生行政の動向やルールが理解できるようになる。
授業計画	第１回:　ようこそ!産業カウンセリング論へ　　授業のガイダンスなど 第２回:　メンタルヘルス教育の実際①　　ストレス対策の4つのテーマ 第３回:　メンタルヘルス教育の実際②　　「ストレスは人生のスパイス」「鷹と鶏」の例え話 第４回　メンタルヘルス教育の実際③　　労働衛生睡眠教育 第５回:　メンタルヘルス事例対応の実際 第６回:　面接相談の基本を学ぶ　①　聴けていますか? 相手のお話「アドバイス、話が分かってこそ活きる」 第７回:　面接相談の基本を学ぶ　②　人の話の三つの要素「意識して、心して聞く、知・情・意」 第８回:　面接相談の基本を学ぶ　③　感情にふれる「フィードバック　聞くは聞くほどにものを言う」 第９回:　面接相談の基本を学ぶ　④　面接場面のビデオ学習 第10回:　面接相談の基本を学ぶ　⑤　ライブで聴き合う「聞いて、語って、拍手して」 第11回:　背景知識を学ぼう　①　キャリアについて　自分の持ち味を活かす　「適材適所」という発想 第12回:　背景知識を学ぼう　②　キャリアについて　「転機」のおとずれ　　「ピンチをチャンスに」 第13回:　背景知識を学ぼう　③　キャリアについて　人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース 第14回:　背景知識を学ぼう　④　労働衛生行政の歴史と法規　人に歴史あり、制度・ルールに事件あり 第15回:　まとめ、質疑応答　試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	「朝一番」の授業に遅刻しないよう体力、健康の保持に努めること。「ドリル」によって理解度確認すること。期末になると「ブックレポート」課題図書が、「貸出し中」で手に入りにくくなるため、早めにブックレポート作成に取り掛かること。（参考書の欄を参照のこと）
授業方法	講義と体験学習(ワーク)
評価基準と評価方法	出席（遅刻の有無）重視。課題として、参考図書のブックレポートの提出。試験の成績を加味する。 評価を数式で、敢えて表現すれば、下記の通り。 成績１００＝授業態度（４０）＋課題（ブックレポート）（３０）＋試験（３０） なお、第15回目授業中に「試験」を行うのでこの日の欠席者と課題未提出者には単位を与えない。 ブックレポート提出期限は、「第１４回授業の前日、教務課へ提出」にする予定である。
履修上の注意	遅刻はワーク支障をきたすので、遅刻厳禁。遅刻せずに出席できるよう意欲と体調を勘案して、授業を選択すること。ワーク実施に際し、講師の指示に協力的態度であることも重視する。特に就活を念頭に置いた学生は、出席日数の不都合が無いよう注意すること。
教科書	manabaに掲載されている資料がテキストそして参考資料になる。必ずプリントアウトして授業に臨むこと。また参考図書等の一読が、課題（ブックレポート）に取り組むために有益である。
参考書	新版キャリアの心理学　渡部三枝子編（ナカニシヤ書房）、これからの職場のメンタルヘルス　藤井久和編（創元社）、フランクルを学ぶ人のために　山田邦夫編（世界思想社）、ロゴセラピー入門シリーズ①から⑨　勝田茅生（システムパブリカ）、日本ロゴセラピスト論集第１号から７号、ストレスに負けない技術　田中ウルヴェ（日本実業出版社）、今日、わたしは心を決める　アンディ・アンドリュース（サンマーク出版）、言葉を聞く人心を聴く人　武藤清栄（中災防）その他、講師と話し合い認められたもののブックレポートは可。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学A						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1204A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に個人，対人レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響についての理解をめざし、人間の対人あるいは集団行動に関する心理学的法則を学習する。前期の社会心理学Ａでは主に、自分と他者，社会との関係について学ぶ。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解することができる。
授業計画	第１回　社会心理学とは 第２回　社会心理学の方法・社会行動の原則 第３回　対人認知 第４回　帰属 第５回　印象形成 第６回　自己意識 第７回　社会的比較 第８回　対人魅力 第９回　コミュニケーション 第１０回　自己開示 第１１回　認知的整合性 第１２回　説得 第１３回　社会的影響 第１４回　前期授業の補足，質疑応答 第１５回　前期試験と後期授業の説明
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読み，予習をする。 授業中に紹介した文献（著書，論文）などを自主的に読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）30%，定期試験70%
履修上の注意	座席指定 教科書は，毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014
参考書	

－　　　－　　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1204B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に集団，大衆レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	前期の社会心理学Aに引き続き、後期のBでは主に、多数の人々との関係を扱った領域について、人間の社会行動の心理学的法則を学習する。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解することができる。 自分の意見を効果的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	第１回　　社会的影響 第２回　　集団規範 第３回　　社会的交換 第４回　　援助行動 第５回　　リーダーシップ 第６回　　幸福感 第７回　　広告と社会　（ゲストスピーカー招聘） 第８回　　ストレス 第９回　　文化 第１０回　時間的展望 第１１回　個人発表会（プレゼンテーションの方法に注目して） 第１２回　個人発表会（発表内容の構成に注目して） 第１３回　個人発表会(発表内容から将来のために役立つことに注目して） 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む） 個人発表
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）20%，個人発表10%，　定期試験70%
履修上の注意	座席指定 教科書は，毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014
参考書	

－　　　－　　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	谷　芳恵					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。
到達目標	1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる 2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる 3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する
授業計画	第 1回 心理学調査の方法を知る 第 2回 心理学調査を計画する 第 3回 質問紙を作成する 第 4回 データを入力・整理する 第 5回 データを読む: 単純集計 第 6回 2つの変数の関係を調べる: 相関 第 7回 クロス集計表を解析する: χ2検定 第 8回 7回までを振り返る: 小テスト 第 9回 平均値を比べる1: t検定 第10回 平均値を比べる2: 分散分析 第11回 合成変数を作る: 主成分分析 第12回 共通因子を見つける: 因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る: 小テスト 第15回 まとめと最終試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業の内容はもちろん、「統計基礎論」の内容についても復習した上で毎回の授業に臨んでください。必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。また、不定期的にHWを出すことがあります。基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。
授業方法	講義および実習
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、課題・HWへの取り組み等）30%、試験（小テスト2回・最終試験）70%
履修上の注意	「統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です。遅刻は欠席になりますので注意してください。受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。
教科書	必要に応じて紹介します。
参考書	必要に応じて紹介します。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	中田　友貴					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査・実験に使う統計ソフトの操作や統計処理についての理解を目指す。
授業の概要	本授業では、心理学の調査法の一つである質問紙調査についての質問項目の作成から、質問紙法や実験室実験におけるデータの分析方法までの一連の手続きを実習形式で学習する。
到達目標	1)心理調査で使用される統計手法をspssで行えるようになる。 2)統計手法の意味と数値の読み取り方がわかるようになる。 3)データの性質と分析の目的に応じた統計方法を選択できるようになる。
授業計画	1.　心理学における調査とは１（調査の方法〉 2.　心理学における調査とは２〈調査計画〉 3.　質問紙の作成 4.　データの種類：入力・反転処理・合成変数 5.　単純集計 6.　順位と複数回答の集計 7.　クロス表の解析 8.　二つの平均の差の検定 9.　1-8回までの振り返り 10.　分散分析 11.　主成分分析 12.　因子分析 13.　回帰分析 14.　14回までのおさらい 15.　期末テストと期末テスト解説
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	基本的なパソコンの操作(特にファイルの保存やコピーアンドペースト，およびExcel)などは授業前に自習しておくこと。授業で習得した操作を自分一人でも出来るようになるために復習が必要となります。各自の理解度に応じて、適宜紹介する統計に関する書籍やウェブサイト等を補助的に利用することを推奨します。
授業方法	講義（実習的内容を含む）
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・課題への取り組み等）30%，試験70%
履修上の注意	USBメモリを毎回持参してください。512MB以上のものであれば問題ありません。
教科書	指定しない。毎回の講義でレジュメを配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学						
担当教員	前田　洋光					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	消費者理解のための心理学
授業の概要	消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本講では、消費者の購買意思決定過程や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考え、よりよい消費生活を考えるきっかけにしてほしい。
到達目標	・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。 ・消費の文脈から、人間理解を深めることができる ・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。
授業計画	1. イントロダクション：消費者行動とは？ 2. 消費者の購買意思決定過程（１）：消費者の問題認識と情報探索、多属性態度モデル 3. 消費者の購買意思決定過程（２）：購買意思決定を左右する要因 4. 消費者の購買意思決定過程（３）：不合理な購買意思決定 5. 消費者の価格判断（１）：心理的サイフ 6. 消費者の価格判断（２）：不合理な消費者の価格判断 7. 消費者満足 8. モノの意味と保有 9. 広告効果 10. ブランドと広告 11. プロダクトプレイスメント 12. くちコミの概略 13. くちコミの効果を左右する要因 14. 消費者の廃棄過程 15. まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学習した内容を、例えば実際に店舗内（売り場）を観察する等、マーケティング戦略との関連を検討してみると、授業内容の理解が促進されると思われる。さらに深く学習するには、参考図書を熟読すること。
授業方法	講義形式でおこなう。講義毎に、当該授業のテーマに関する簡単な小レポートを実施する。
評価基準と評価方法	小レポート（30%） テスト（70%）
履修上の注意	ある程度の心理学（特に社会心理学）の知識を有し、かつ、消費者行動に関心がある人を対象とします。
教科書	
参考書	杉本徹雄（編著）（2012）新・消費者理解のための心理学　福村出版

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援や死生学に関連する文献を読む。
授業の概要	被害者支援や死生学に関するテーマ、およびその関連領域についての文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、指定された本の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。
到達目標	(1) 被害者支援や死生学に関連する文献を読み、要点をまとめて発表することができる。 (2) 被害者支援や死生学に関連する文献を読み、それに対する自らの考えを述べることができる。 (3) 国内や海外で発表された文献を検索し、収集することができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献検索の方法を学ぶ 第3回：文献講読とディスカッション (1) 第4回：文献講読とディスカッション (2) 第5回：文献講読とディスカッション (3) 第6回：文献講読とディスカッション (4) 第7回：文献講読とディスカッション (5) 第8回：文献講読とディスカッション (6) 第9回：文献講読とディスカッション (7) 第10回：文献講読とディスカッション (8) 第11回：文献講読とディスカッション (9) 第12回：文献講読とディスカッション (10) 第13回：文献講読とディスカッション (11) 第14回：文献講読とディスカッション (12) 第15回：授業の総括と夏季休暇中の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業は発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを作成する（学習時間90分）。 授業後学習：各発表内容の要点を確認・整理する（学習時間90分）。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表 (50%) ：発表内容により評価する。到達目標(1)および(3) に関する到達度の確認。 平常点 (50%) :質疑応答や討論への参加により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	積極的な授業参加が求められる。原則として、遅刻や欠席は認めない。
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学及び多文化における子どもの育ち・子育て。
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーション、及び多文化における子どものの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
到達目標	発達心理学についての専門的な文献を読んで理解することができるようになり、研究に必要な手法を知ることができる。ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる。最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。
授業計画	１．オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）１ ８．個人発表とディスカッション（文献）２ ９．個人発表とディスカッション（文献）３ １０．興味のテーマの発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画）１ １４．個人発表とディスカッション（研究計画）２ １５．夏季休暇中の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。 授業前学習：論文講読、発表資料の作成（２時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された箇所の確認と資料の修正（２時間以上）。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題（８０％） 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。 課題：論文講読、発表、レポートの作成を総合的に評価する。
履修上の注意	発表担当者はゼミ人数分の資料（レジュメ）を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること（必ず１授業1回はコメント・質問をすること）。
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて，論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する
授業の概要	主として子どもや子育て，親支援，障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め，卒業研究に向けてテーマを探す。
到達目標	1.研究テーマ応じた文献を収集し，読み解くことができる。 2.文献の内容をパワーポイント等を用いて発表し，ディスカッションすることができる。 3.自分自身の研究テーマの大まかな領域やテーマを決めることができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション　自己紹介と発表の割り当て 第2回：臨床心理学領域の研究に関する資料収集方法と論文構成について学ぶ 第3回：文献・研究の要約や発表の仕方について学ぶ 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（１）研究テーマの探索 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（２）研究テーマリストの作成 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（３）リストの発表 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（４）研究テーマの再探索 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（５）研究テーマリストの追加 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（６）リストの再発表 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（７）テーマに基づく空想研究の作成 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（８）空想研究の発表 第12回：文献を基にした発表とディスカッション（９）研究テーマの選定開始 第13回：文献を基にした発表とディスカッション（１０）研究テーマの決定 第14回：文献を基にした発表とディスカッション（１１）研究テーマに関する文献収集 第15回：授業の総括と夏休みの課題について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：卒論につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，発表の振り返りを行うとともに，次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／発表・提出物（50%） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	身近な問題を心理学の視点で理解し、卒業研究のテーマを探索する
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献を読み、討論を行う。臨床心理学領域に関する学術論文の形式、データの読み方などについて理解を深め、卒業研究のテーマをさがす。
到達目標	１．社会における問題について心理学的な視点で問題意識を持ち、説明することができる。 ２．精神的な問題や援助技法のいくつかについて、専門用語を用いて説明することができる。 ３．研究テーマに沿った文献を検索し、内容について解説することができる。
授業計画	第１回：オリエンテーション　テーマの決め方と研究の進め方 第２回：臨床心理学領域の研究領域と資料収集の方法 第３回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（１）ライフサイクル 第４回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（２）精神疾患 第５回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（３）心身症 第６回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（４）不登校 第７回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（５）ひきこもり 第８回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（６）発達障害 第９回：学術論文に関する文献研究と発表（１）研究計画について 第10回：学術論文に関する文献研究と発表（２）学術論文の構成 第11回：学術論文に関する文献研究と発表（３）測定指標 第12回：学術論文に関する文献研究と発表（４）記述統計 第13回：学術論文に関する文献研究と発表（５）推測統計 第14回：学術論文に関する文献研究と発表（６）考察について 第15回：授業の総括と今後の課題について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分） 上記の学習に以下の事柄を含める １．文献検索と発表の準備 ２．研究計画の作成
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論や発表を行う。
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中の発言などを参考にし、欠席した場合は減点する）、発表50%
履修上の注意	・無断欠席しないこと ・互いの研究に関心を持ち、ディスカッションに積極的に参加すること
教科書	なし
参考書	なし

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（ジェンダー、環境、福祉など）。
到達目標	社会心理学の研究論文や著書を読み，理解できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，発表割当て 第２回　個人発表と討論１（研究テーマ案） 第３回　個人発表と討論２（研究テーマ案） 第４回　個人発表と討論３（研究テーマ案） 第５回　個人発表と討論４（研究テーマ案） 第６回　文献（研究論文・著書）の収集 第７回　文献（研究論文・著書）発表１ 第８回　文献（研究論文・著書）発表２ 第９回　文献（研究論文・著書）発表３ 第１０回　文献（研究論文・著書）発表４ 第１１回　文献（研究論文・著書）発表５ 第１２回　文献（研究論文・著書）発表６ 第１３回　文献（研究論文・著書）発表７ 第１４回　文献（研究論文・著書）発表８ 第１５回　夏季休暇中の課題について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分が関心をもつ社会問題についての情報を収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）１００％
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること
教科書	
参考書	

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業論文のテーマの決定と研究計画の立案
授業の概要	各自の関心のあるテーマについての文献を講読し、研究の方法や結果の分析について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
到達目標	(1) 各自の関心のあるテーマについての文献を読み、要点をまとめて発表することができる。 (2) 各自の関心のあるテーマについての文献を読み、研究の方法や結果の分析について説明することができる。 (3) 卒業論文のテーマを決め、研究計画を立てることができる。
授業計画	第1回：文献研究に関する発表とディスカッション（1） 第2回：文献研究に関する発表とディスカッション（2） 第3回：文献研究に関する発表とディスカッション（3） 第4回：文献研究に関する発表とディスカッション（4） 第5回：文献研究に関する発表とディスカッション（5） 第6回：文献研究に関する発表とディスカッション（6） 第7回：文献研究に関する発表とディスカッション（7） 第8回：研究計画に関する発表とディスカッション（1） 第9回：研究計画に関する発表とディスカッション（2） 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（3） 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（4） 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（5） 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（6） 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（7） 第15回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業は発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを作成する（学習時間90分）。 授業後学習：各発表内容の要点を確認・整理する（学習時間90分）。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表（50%）：発表内容により評価する。到達目標(1)(2)(3) に関する到達度の確認。 平常点（50%）:質疑応答や討論への参加により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	積極的な授業参加が求められる。原則として、遅刻や欠席は認めない。 「心理学演習A」を履修していることが前提となる。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学及び多文化における子どもの育ち・子育て
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーション、及び多文化における子どもの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
到達目標	発達心理学についての専門的な文献を読んで理解することができるようになり、 研究に必要な手法を知ることができる。ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる。 最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。
授業計画	１．夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）１ ８．個人発表とディスカッション（文献）２ ９．個人発表とディスカッション（文献）３ １０．興味のテーマの発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画）１ １４．個人発表とディスカッション（研究計画）２ １５．個人発表とディスカッション（研究計画）３
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。 授業前学習：論文講読、発表資料の作成（２時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された箇所の確認と資料の修正（２時間以上）。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題（８０％） 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。 課題：論文講読、発表、レポートの作成を総合的に評価する。
履修上の注意	発表担当者はゼミ人数分の資料（レジュメ）を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること（必ず１授業1回はコメント・質問をすること）。
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

-　-　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて，自身の研究テーマを決めてそれに応じた研究計画について学ぶ
授業の概要	心理学演習Aから引き続き，個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で，自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び，研究計画の概案を検討していく。
到達目標	1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。 3. 自分自身の研究テーマに応じた大まかな研究計画を考えることができる。
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（１）テーマに関する先行研究の要約と発表 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（２）テーマに関する先行研究の追加検討 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（３）主となるキーワードの決定 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（１）キーワード1に関する論文収集 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（２）キーワード1に関する論文発表 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（３）キーワード2に関する論文収集 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（４）キーワード2に関する論文発表 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（５）キーワード3に関する論文収集 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（６）キーワード3に関する論文発表 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（１）調査方法の収集 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（２）調査計画の仮案作成 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（３）調査計画の仮案発表 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（４）仮案の課題点の検討 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（５）仮案の修正 第15回：研究計画に関する発表とディスカッション（６）研究計画書の執筆開始
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：卒論につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，発表の振り返りを行うとともに，次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／発表・提出物（50%） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立てる。
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（特に論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく形で行う。臨床心理学分野における学術論文の読み方、データの解釈などについて学びながら興味に従ってテーマを絞り、後半は卒業論文のための研究計画を立てる。
到達目標	１．身近な問題について、心理学の概念や用語を使って説明できる。 ２．それらの問題の解決に向けて、必要な情報やデータの種類について説明できる。 ３．卒業研究のテーマおよび研究計画について説明することができる。
授業計画	第１回：学術論文の検索について（１）雑誌の選び方 第２回：学術論文の検索について（２）検索の方法 第３回：学術論文の検索について（３）引用の仕方について 第４回：学術論文のデータ解釈について（１）相関分析 第５回：学術論文のデータ解釈について（２）平均値の比較 第６回：学術論文のデータ解釈について（３）因子分析 第７回：学術論文のデータ解釈について（４）重回帰分析 第８回：学術論文のデータ解釈について（５）結果の読み方 第９回：調査／実験の方法論と倫理（１）インフォームドコンセント 第10回：調査／実験の方法論と倫理（２）守秘義務 第11回：調査／実験の方法論と倫理（３）データの保管 第12回：研究計画の立て方 第13回：研究計画に関する討論（１）対象 第14回：研究計画に関する討論（２）方法・手続き 第15回：研究計画に関する討論（３）分析方法
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分） 上記の学習時間に以下の事柄を含める １．文献検索と発表の準備 ２．研究計画の作成
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論を行う
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中の発言などを参考にし、欠席した場合は減点する）、発表50%
履修上の注意	・無断欠席しないこと ・互いの研究に関心を持ち、ディスカッションに積極的に参加すること
教科書	なし
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	自らの社会心理学研究の計画作成
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。
到達目標	卒業論文の研究計画を立てることができる。
授業計画	第１回　個人発表と討論　（夏季休暇中の課題の提出） 第２回　文献（先行研究論文）収集 第３回　個人発表と討論１　（研究計画案） 第４回　個人発表と討論２　（研究計画案） 第５回　個人発表と討論３　（研究計画案） 第６回　個人発表と討論４　（研究計画案） 第７回　個人発表と討論５　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第８回　個人発表と討論６　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第９回　個人発表と討論７　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１０回　個人発表と討論８　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１１回　個人発表と討論９　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１２回　個人発表と討論１０（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１３回　個人発表と討論１１（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１４回　研究計画書の作成１ 第１５回　研究計画書の作成２
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の研究計画に関連した情報を幅広く収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）１００％
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること
教科書	
参考書	

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P01020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の学問の成り立ち，人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学ぶ
授業の概要	心理学の幅広い分野を，教科書の内容にそって学習する．これにより，心理学という学問は，心のはたらきを「行動」として捉え，その法則を科学的に定立するものであることが理解できる．また，授業時間の一部を使ってできる，簡単な実験や質問紙調査を行い，自己分析も行う．
到達目標	現代心理学の全体像を知ることができる。 心理学における実証的アプローチを理解することができる。
授業計画	第１回　　オリエンテーション　～科学としての心理学 第２回　　感覚・知覚 第３回　　学習 第４回　　記憶 第５回　　認知 第６回　　生理 第７回　　情動と動機づけ 第８回　　知能 第９回　　パーソナリティ 第１０回　発達 第１１回　臨床 第１２回　社会 第１３回　現代社会と心理学 第１４回　質疑応答、補足 第１５回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の該当部分の教科書を，予習・復習として読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）３０％，　定期試験７０％
履修上の注意	座席指定 教科書を毎回、必携
教科書	「自ら実感する心理学」 　土肥伊都子（編著）（保育出版社）
参考書	

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・陳・原田					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験(陳) 2　実験の解説とレポート作成(陳) 3　記憶の系列位置効果　(陳) 4　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(陳) 5　触二点閾の測定（原田） 6　触二点閾の測定のレポート作成(原田) 7　ストループ(久津木) 8　ストループ:データの分析・レポート作成(久津木) 9　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 10　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート(木場) 11 自由実験：立案・計画　(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施（木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	心理学基礎実習A							
担当教員	久津木・木場・陳・原田						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2		単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験(木場) 2　実験の解説とレポート作成(木場) 3　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート　　　(木場) 5　記憶の系列位置効果　(陳) 6　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(陳) 7　触二点閾の測定 (原田) 8　触二点閾の測定のレポート作成(原田) 9　ストループ(久津木) 10 ストループ:データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画　(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施 (木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	心理学基礎実習A							
担当教員	久津木・木場・陳・原田						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2		単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験(原田) 2　実験の解説とレポート作成(原田) 3　触二点閾の測定 (原田) 4　触二点閾の測定のレポート作成(原田) 5　ストループ(久津木) 6　ストループ:データの分析・レポート作成(久津木) 7　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 8　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート(木場) 9　記憶の系列位置効果　(陳) 10　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(陳) 11 自由実験：立案・計画　(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施 (木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０%）、レポート課題の評価（５０%） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・陳・原田					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成(原田) 2　係留効果の実験実施(原田) 3　係留効果のレポート作成(原田) 4　同調行動実験＆レポート(久津木) 5　パーソナルスペース(久津木) 6　パーソナルスペース実験＆レポート作成(久津木) 7　心と身体の関係-精神生理学-(木場) 8　ストレスと心拍数の実験実施＆レポート作成(木場) 9　身体状態の変化の心への影響の実験実施＆レポート作成(木場) 10　要求水準　(陳) 11　ミューラーリアー錯視(陳) 12　ミューラーリアー錯視のレポート作成(陳) 13　自由実験：立案・計画(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14　自由実験：実施・分析(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15　自由実験：レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・陳・原田					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2　ストレスと心拍数の実験実施＆レポート作成(木場) 3　身体状態の変化の心への影響の実験実施＆レポート作成(木場) 4　要求水準　(陳) 5　ミューラーリアー錯視(陳) 6　ミューラーリアー錯視のレポート作成(陳) 7　両側性転移の実験実施＆レポート作成(原田) 8　係留効果の実験実施(原田) 9　係留効果のレポート作成(原田) 10　同調行動実験＆レポート(久津木) 11　パーソナルスペース(久津木) 12　パーソナルスペース実験＆レポート作成(久津木) 13　自由実験：立案・計画(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14　自由実験：実施・分析(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15　自由実験：レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・陳・原田					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	科学的な心理実験の手法について学ぶことができる。 心理的な実験を科学的なレポートにまとめることができる。 自らの興味の実験を立案、実施し、結果をまとめることができる。
授業計画	1　要求水準　(陳) 2　ミューラーリアー錯視(陳) 3　ミューラーリアー錯視のレポート作成(陳) 4　両側性転移の実験実施＆レポート作成(原田) 5　係留効果の実験実施(原田) 6　係留効果のレポート作成(原田) 7　同調行動実験＆レポート(久津木) 8　パーソナルスペース(久津木) 9　パーソナルスペース実験＆レポート作成(久津木) 10 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 11　ストレスと心拍数の実験実施＆レポート作成(木場) 12　身体状態の変化の心への影響の実験実施＆レポート作成(木場) 13　　自由実験：立案・計画(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 14　　自由実験：実施・分析(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け) 15　　自由実験：レポート作成(木場・陳・原田のいずれかのクラスに振り分け)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失うので留意すること。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなるので注意すること。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習Ⅰ						
担当教員	安原　秀和					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P73050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	基礎心理学の用語や概念についての理解を深める。
授業の概要	大学院進学を希望する学生を対象とする。 心理学概論書を受講生が自習し、その週の担当者が参加者の前で発表する。 発表の後、教員の作成したテスト問題を解く。
到達目標	大学院合格のために必要な水準まで、基礎心理学の知識を得ることができるようになる。 プレゼンテーションに慣れる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　精神物理学と視知覚1 目の仕組みについて（教員が発表する） 第3回　視知覚2 色の知覚と錯視について（教員が発表する） 第4回　視知覚3 形の知覚、奥行きの知覚、運動の知覚 第5回　聴知覚と触知覚 第6回　学習 第7回　中間テスト 第8回　記憶1 記憶の種類 第9回　記憶2 学習と記憶の神経基盤 第10回　思考1 問題解決とピアジェの発達段階 第11回　思考2 知識と推論 第12回　言語 第13回　失語症と失行症、それらの神経基盤 第14回　動機付け1 動機付けと情動 第15回　動機付け2 動機付けの種類と葛藤 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業回で少なくとも1名が担当者となり発表を行なうため、発表準備が必要である。 そして、毎週小テストがあるため、テスト対策として教科書や参考書を含め様々な情報媒体に触れる必要がある。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	テストの成績(50%) 発表の出来(50%)
履修上の注意	授業外の学習で忙しくなると思いますので、頑張ってください。 演習中の発言も積極的にお願いします。
教科書	『心理学　第5版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4130121095
参考書	『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 ISBN: 978-4641053694 ※こちらは買う必要はありません

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P74060
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試に向けた試験対策を行う。
授業の概要	心理学系大学院進学や心理専門職を目指す学生を対象に、臨床心理学に関する専門知識の習得を目指す。大学院入試の過去問題や心理系資格の問題に取り組み、発表やディスカッションを通して理解を深める中で、講師が適宜解説を加える。
到達目標	心理学系大学院入試に臨むにあたって必要な専門知識を習得し、その内容を整理して伝えることができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　心理系大学院入試の傾向と対策 第2回　大学レベルの心理学①　社会・感情・性格、臨床・障害 第3回　大学レベルの心理学②　神経・生理、健康・福祉 第4回　大学レベルの心理学　まとめ 第5回　指定大学院（臨床心理学）対策①　心理査定（質問紙法、投映法） 第6回　指定大学院（臨床心理学）対策②　心理査定（ロールシャッハ・テスト、発達検査・知能検査） 第7回　指定大学院（臨床心理学）対策③　精神症状（抑うつ障害、双極性障害、不安症、強迫症、心身症） 第8回　指定大学院（臨床心理学）対策④　精神症状（ パーソナリティ障害、統合失調症、発達障害） 第9回　指定大学院（臨床心理学）対策⑤　心理療法（精神分析的心理療法） 第10回　指定大学院（臨床心理学）対策⑥　心理療法（ユング心理学） 第11回　指定大学院（臨床心理学）対策⑦　心理療法（認知/行動療法） 第12回　指定大学院（臨床心理学）対策⑧　心理療法（人間性心理学） 第13回　指定大学院（臨床心理学）対策⑨　心理療法（家族療法、ブリーフセラピー） 第14回　指定大学院（臨床心理学）対策⑩　心理療法（遊戯療法・箱庭療法） 第15回　指定大学院（臨床心理学）対策　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	時間の都合上、心理学系大学院入試のために必要とされる学習内容をすべて学習することはできないので、講義で扱わない内容については各自で書籍や過去問題などを通じて理解を深める。（学習時間：360分）
授業方法	発表や演習、ディスカッションを中心に講義を進める。
評価基準と評価方法	・平常点50％：授業中の発言など受講態度を参考にする。（到達目標に関する到達度の確認） ・発表50％：（到達目標に関する到達度の確認）
履修上の注意	心理学系大学院進学や心理専門職を目指す学生を対象とします。
教科書	・『'18-'19年版 臨床心理士試験徹底対策テキスト＆予想問題集』、心理学専門校ファイブアカデミー、ナツメ社、ISBN　9784816364020 ・『一発合格！臨床心理士試験 一問一答問題集＆最重要キーワード』、心理学専門校ファイブアカデミー、ナツメ社、ISBN　9784816363924
参考書	・『心理学検定 一問一答問題集[A領域編]』、日本心理学諸学会連合 心理学検定局、実務教育出版、ISBN 9784788961012 ・『心理学検定 一問一答問題集[B領域編]』、日本心理学諸学会連合 心理学検定局、実務教育出版、ISBN　9784788961029 ・『2018年度版　心理学検定 公式問題集』、日本心理学諸学会連合 心理学検定局、実務教育出版（2018年3月刊行予定） ・『心理学検定 基本キーワード［改訂版］』、日本心理学諸学会連合 心理学検定局、実務教育出版、ISBN　9784788960961 ・『臨床心理士等心理系大学院院試&資格試験のための心理学標準テキスト'18～'19年版』、浅井伸彦、秀和システム（2018年3月刊行予定）

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2〜3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	(1) 各検査の理論的背景や目的、実施方法について説明することができる。 (2) 授業で取り上げた心理検査について、手順通りに検査を実施することができる。 (3) 授業で取り上げた心理検査について、結果を整理し、レポートとしてまとめることができる。
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間90分）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間90分）。
授業方法	講義（実習を含む）
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)および(3)に関する到達度の確認。 平常点（60%）:実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社　ISBN4-8210-6360-3

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2〜3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	(1) 各検査の理論的背景や目的、実施方法について説明することができる。 (2) 授業で取り上げた心理検査について、手順通りに検査を実施することができる。 (3) 授業で取り上げた心理検査について、結果を整理し、レポートとしてまとめることができる。
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間90分）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間90分）。
授業方法	講義（実習を含む）
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)および(3)に関する到達度の確認。 平常点（60%）:実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社　ISBN4-8210-6360-3

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。
到達目標	投映法について、説明できる。 代表的な投映法を挙げ、それらの特徴を述べられる。 様々な投映法心理検査を被検者として体験し、その結果に基づいて自己分析を行い、所見を作成できる。
授業計画	#01：オリエンテーションー投映法とは？ #02：描画法①ーバウム・テスト #03：描画法②ー人物画テスト #04：描画法③ーS-HTP #05：描画法④ー風景構成法 #06：SCT①ー理論と施行法 #07：SCT②ー結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①ー理論と施行法 #09：PFスタディ②ー結果の整理(1)　スコアリング #10：PFスタディ③ー結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：PFスタディ④ー結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出 ※授業進度によっては，検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。
授業方法	講義（演習、実習的内容を含む）。
評価基準と評価方法	平常点（50%） ・実施検査への取り組み方（態度） ・実施検査の分析への取り組み方（態度） ・毎回実施する小レポート（問いに対する回答、質問、感想）。提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 検査所見レポート（50%） ・実施した検査を用いての自己分析所見レポート。自己分析所見の作成に際しては、採点基準を配布する。
履修上の注意	テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。
到達目標	投映法について、説明できる。 代表的な投映法を挙げ、それらの特徴を述べられる。 様々な投映法心理検査を被検者として体験し、その結果に基づいて自己分析を行い、所見を作成できる。
授業計画	#01：オリエンテーション－投映法とは？ #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①－理論と施行法 #09：PFスタディ②－結果の整理(1)　スコアリング #10：PFスタディ③－結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：PFスタディ④－結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出 ※授業進度によっては，検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。
授業方法	講義（演習、実習的内容を含む）。
評価基準と評価方法	平常点（50%） ・実施検査への取り組み方（態度） ・実施検査の分析への取り組み方（態度） ・毎回実施する小レポート（問いに対する回答、質問、感想）。提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 検査所見レポート（50%） ・実施した検査を用いての自己分析所見レポート。自己分析所見の作成に際しては、採点基準を配布する。
履修上の注意	テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

- 　　- 　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論						
担当教員	野口　智草					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	＊ 記述統計について、その意味、計算方法を理解し、自分で計算できる。 ＊ 母集団の推定について理解できる。 ＊ 推測統計について、基本的な考え方と解釈方法について理解できる。 ＊ 対応のあるt検定とカイ2乗検定については、計算方法を理解し、自分で計算できる。
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差（ＳＤ） 第5回　正規分布・標本と母集団 第6回　相関 第7回　前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回　母集団の推定と真の標準偏差 第9回　推定誤差（ＳＥ） 第10回　統計的検定 第11回　ｔ値 第12回　帰無仮説と対立仮説・ｐ値 第13回　対応のないｔ検定・カイ2乗検定 第14回　分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です（目安とする学習時間：30分） 授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は次週質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください（目安とする学習時間：30～1時間）
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習
評価基準と評価方法	宿題点 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40%
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生には、即刻退席してもらいます。
教科書	なし
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫（著）　北大路書房　ISBN 4-7628-2125-X

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論						
担当教員	野口　智草					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	＊ 記述統計について、その意味、計算方法を理解し、自分で計算できる。 ＊ 母集団の推定について理解できる。 ＊ 推測統計について、基本的な考え方と解釈方法について理解できる。 ＊ 対応のあるt検定とカイ2乗検定については、計算方法を理解し、自分で計算できる。
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差（ＳＤ） 第5回　正規分布・標本と母集団 第6回　相関 第7回　前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回　母集団の推定と真の標準偏差 第9回　推定誤差（ＳＥ） 第10回　統計的検定 第11回　ｔ値 第12回　帰無仮説と対立仮説・ｐ値 第13回　対応のないｔ検定・カイ2乗検定 第14回　分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です（目安とする学習時間：30分） 授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は次週質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください（目安とする学習時間：30～1時間）
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習
評価基準と評価方法	宿題点 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40%
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生には、即刻退席してもらいます。
教科書	なし
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫（著）　北大路書房　ISBN 4-7628-2125-X

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	心理の仕事							
担当教員	単位認定者：久津木　文						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P72070
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3		単位数	2.0

授業のテーマ	職業としての心理学
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人に、オムニバス形式で講義をお願いする。
到達目標	社会の中の様々な領域で、心理学の知識がどのように活かされているのかを具体的に知ることができる。 また、そのことを通じて、自分自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	＊1,15回目以外は全てゲスト・スピーカーを招へいする。 1　イントロダクション／大学院でプロフェッショナルを目指すということ 2　医療事務で心理の知識をどういかせるか 3　大学病院での心理の仕事 4　精神科病院／復職支援での心理の仕事 5　アニマルセラピストという仕事 6　スクールカウンセラーの仕事 7　教育センターでの心理の仕事 8　小学校でのスクールソーシャルワーカーの仕事 9　販売職の仕事に心理の知識をどういかせるか 10 障害者支援施設における心理の仕事 11 児童の施設における心理の仕事 12 キャリアカウンセラーの仕事 13 緩和ケアにおける心理の仕事 14 県警での被害者支援カウンセラーの仕事 15 総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前に、各回のテーマについて調べある程度知識を得ておく（1時間）。 授業後学習：話しを聞いてから、各回の話に関連する文献等を読み理解を深める（１時間）。
授業方法	オムニバスの講義形式
評価基準と評価方法	平常点（50%）、毎回の小レポート（50%）により評価する。 平常点：受講時の態度、および、授業への参加の程度を総合的に評価する。 小レポート：毎回、授業の最後に小レポートを実施する。総合得点を小レポートの評価とする。
履修上の注意	講師の先生方は、いずれも学外の専門家の方々である。私語、居眠り、遅刻、早退といった失礼な態度をとることは厳に慎まなければならない。受講態度に問題があると判断した学生は、受講を不可とする場合もある。 なお、講師の都合その他により、授業の予定に変更が生じる場合があることに注意。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 ＊補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 ＊出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。

\-　　-　　　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法Ⅰ						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ 　－Ⅰ．精神分析と精神分析的心理療法
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法Ⅰ」では、精神分析と精神分析的心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的心理療法という。 この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的心理療法の実際について学習する。
到達目標	Freudの精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。 Freud以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。 精神分析、精神分析的心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。 精神分析に関わる概念や理論の問題点を取り上げ、反論を述べることができる。
授業計画	#01：オリエンテーションー精神分析・精神分析的心理療法とは？ #02：精神分析の基本的観点①：局所論／構造論 #03：精神分析の基本的観点②：力動論 #04：精神分析の基本的観点③：経済論 #05：精神分析の基本的観点④：発達論 #06：精神分析の技法①：催眠から自由連想へ #07：精神分析の技法②：転移、逆転移、中立性 #08：精神分析の発展①：アドラーとユング #09：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)－自我心理学・対象関係論 #10：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)－自己心理学・対人関係論 #11：精神分析の発展④：対象の拡大 #12：精神分析と精神分析的心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #13：精神分析と精神分析的心理療法②：精神分析の新しい流れ #14：まとめ、試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「精神分析」「精神分析的心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など。：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 期末試験（86%）：到達目標の到達度を評価する。#15に解答例を配布する。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	小此木啓吾・馬場謙一（編）　1977　フロイト精神分析入門　有斐閣新書　ISBN：978-4641087101 土居健郎　1988　精神分析　講談社学術文庫　ISBN：978-4061588516 その他、授業内で適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法II						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305B
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ －Ⅱ．子どもの心理療法
授業の概要	心理療法には，さまざまな学派（考え方），またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では，講師の専門性に応じた様々な心理療法について学ぶ。 「心理療法Ⅱ」では乳幼児期から児童期までの間に子どもが呈する様々な心理症状についての知識を得る。そして子どもにとって身近な他者である家族の心理について同時に考えることで，子どもの援助を多面的な視点から学ぶ。
到達目標	1.乳幼児期から児童期に至る子どもの呈する心理症状や障碍（がい）についての基礎的な知識を得て，人に説明ができる。 2.子どもやその家族の心的援助について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子どもの臨床とは～ 第2回：子どもの心や症状について考えるための基本的な理解 第3回：プレイセラピーとは 第4回：ケースから学ぶ～実際の子どものセラピーの様子について文献記録を読み解く～ 第5回：乳児期に見られる症状とその援助①反応の弱い子，過敏な子，育てやすい子 第6回：乳児期に見られる症状とその援助②発達の早い子，ゆっくりな子 第7回：幼児期に見られる症状とその援助①夜驚症，チック障害 第8回：幼児期に見られる症状とその援助②緘黙症，強迫性障害 第9回：体験から学ぶ～①乳幼児期のセラピーの技法を体験してみよう～ 第10回：アタッチメント理論を基にした子どもの理解と親への援助 第11回：親子の関係性そのものの理解と援助の技法を学ぶ～セラプレイとは～ 第12回：体験から学ぶ～②セラプレイ的遊びを体験してみよう～ 第13回：児童期に見られる症状とその援助①不登校 第14回：児童期に見られる症状とその援助②発達障害 第15回：総まとめと試験　～仮想事例の検討～
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して，参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに，子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）
授業方法	基本的に講義を中心とした比較的専門性の高い内容とする。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／中間レポート（30%）／期末試験（40%） ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても，重要な内容は適宜紹介や振り返りを行う。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	鵜飼奈津子（2010）子どもの精神分析的心理療法の基本．誠信書房． ISBN：978-4-414-40060-1 木部則雄（2006）こどもの精神分析　クライン派・対象関係論からのアプローチ． 岩崎学術出版社　　ISBN：978-4753306091

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305C
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ －Ⅲ．家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法Ⅲ」では、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	１．家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。 ２．身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。
授業計画	第１回：心理療法における「問題」の捉え方 第２回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第３回：家族療法の理論と実際（１）家族療法とシステム論 第４回：家族療法の理論と実際（２）家族療法の実際 第５回：ブリーフセラピー概論 第６回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第７回：MRIモデルの理論と技法（１）変化の理論 第８回：MRIモデルの理論と技法（２）コミュニケーション理論 第９回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（１）基本的な考え方と特徴 第１０回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（２）解決構築とは？ 第１１回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（３）質問技法の実際 第１２回：ナラティヴ・セラピー（１）社会構成主義の理論 第１３回：ナラティヴ・セラピー（２）会話の実際 第１４回：ナラティヴ・セラピー（３）事例を中心に 第１５回：試験と総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点20%（リアクションペーパー）、中間テスト40%、期末テスト40%
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次回の授業までに必ず本人が受け取りにくること。
教科書	
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門―システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東　豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	心理療法Ⅳ							
担当教員	安達　圭一郎						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305D
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4		単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ －Ⅳ．対人関係療法（IPT）の面接プロセス，面接技法，面接対象
授業の概要	心理療法にはさまざまな学派（考え方），またさまざまな対象がある。心理学科専門科目「心理療法」では，講師の専門性に応じた様々な心理療法について学ぶ。 「心理療法Ⅳ」では，対人関係療法（IPT）について学ぶ。IPTとは，認知行動療法と双璧をなすエビデンスベイストな（科学的根拠のある）短期心理療法である。本講義では，IPTの面接プロセス，面接技法，治療者に必要な態度について，一部ロールプレイも体験しながら学び，IPTの特質について理解を深める。
到達目標	・IPTの面接プロセスを挙げることができる ・面接プロセスに応じた面接技法を挙げることができる ・IPT治療者に必要な態度を説明できる ・IPTの特質を説明できる
授業計画	第1回目　オリエンテーション　　講義の概要と受講要件の確認 第2回目　IPTとは①　　概観と特徴 第3回目　IPTとは②　　面接目標と対象となる疾患 第4回目　IPTとは③　　科学的根拠とは：何をもって科学的根拠を言うのか 第5回目　IPTとは④　　治療者の役割と病者の役割：医学モデルの理解の仕方 第6回目　IPTの面接プロセス①　　初期①：見立てに必要な情報とは 第7回目　IPTの面接プロセス②　　初期②：問題領域と対人関係フォーミュレーション 第8回目　IPTの面接プロセス③　　中期①：問題領域と面接目標 第9回目　IPTの面接プロセス④　　中期②：問題領域（悲哀，役割をめぐる不和）に応じた面接技法 第10回目　IPTの面接プロセス⑤　　中期③：問題領域（変化，欠如）に応じた面接技法 第11回目　IPTの治療プロセス⑥　　終結期 第12回目　IPTによる面接事例　　うつ病患者に対する自験例 第13回目　IPTによる面接事例　　摂食障害患者に対する自験例 第14回目　IPTの応用　　双極性障害患者，高齢者，思春期青年期患者への応用 第15回目　まとめに変えて　　IPTの特質についてまとめる
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	集中講義での開講となるが，事前に指定テキストに目を通し，あらかじめ他の心理療法との比較で生じた疑問点などを整理しておいてほしい。 また，受講後も，繰り返し，講義ノートやテキストを振り返ってほしい
授業方法	講義方式と一部演習
評価基準と評価方法	受講態度30%，最終試験（第15回目実施）70%
履修上の注意	5回欠席で科目履修を不可とする
教科書	水島広子著「対人関係療法でなおすうつ病」創元社
参考書	水島広子著「臨床家のための対人関係療法入門ガイド」創元社

- - -

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	ジェンダーの心理学							
担当教員	土肥　伊都子						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4		単位数	2.0

授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が，ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくことができる。 その心の中のジェンダーによりステレオタイプが生まれ，ジェンダー社会を維持するしくみを理解することができる。 ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を習得することができる。
授業計画	第１回　ジェンダーへの心理学的アプローチ 第２回　セックスとジェンダー 第３回　ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第４回　ジェンダー・スキーマ 第５回　集団とジェンダー・ステレオタイプ 第６回　性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第７回　ジェンダーの社会化（１）子ども自身の認知発達 第８回　ジェンダーの社会化（２）子どもを取り巻く環境 第９回　夫婦，男女間のコミュニケーション 第１０回　ジェンダーによる心身への影響１（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第１１回　ジェンダーによる心身への影響２　-精神疾患の性差，役割行動－ 第１２回　心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第１３回　ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第１４回　前期授業の質疑応答 第１５回　前期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に，教科書を読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して，復習する。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）３０%，定期試験７０％
履修上の注意	座席指定 連絡用アドレス：　dohi[at]shoin.ac.jp　※[at]を@に置き換える。 オフィスアワー：木曜日　12:10～13:10（13号館2階の研究室）
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学						
担当教員	村上　幸史					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	情報社会の心理学
授業の概要	日常生活でわれわれは多くの情報に触れています。このように目や耳にする情報は、どのように伝わり、どのように受け取られるでしょうか。この講義ではその心理的特徴のうち、特に対人関係や信頼性の側面に注目して、いくつかの事例を通して解説をしていきます。
到達目標	情報の伝達や受け取り方について、自分なりに解釈できるようになる。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　情報の理論 第3回　うわさ（1）うわさの理論 第4回　うわさ（2）うわさと風評被害 第5回　流行 第6回　ネットワーク（1）「ともだち」より 第7回　ネットワーク（2）6次のへだたり 第8回　SNSと対人関係（1）友人の希薄化理論と選択的関係 第9回　SNSと対人関係（2）返報性と社会的交換 第10回　スケープゴーティング（1）攻撃行動と非難 第11回　スケープゴーティング（2）JR脱線事故と感染症の報道から 第12回　スケープゴーティング（3）不謹慎とは 第13回　予言とその心理（1）なぜ当たるのか、占いを例として 第14回　予言とその心理（2）言霊の心理 第15回　まとめと試験 ※進行内容により、回数等を調整することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマあるいは講義の最後に、話したテーマの要点を配布しますので、復習するようにしておいてください。この講義では覚えておくべき理論が大量にあるわけではないですが、その代わりに現実のニュースなどにも積極的に関心を持って触れておくこと（新聞やネットニュースなどを読むようにすることが望ましい）。講義内で取り上げます。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	レポート（1回）、講義内での試験（1回）、各40%、講義中の課題20%
履修上の注意	私語など他者に迷惑をかける行為は絶対に慎むこと。 状況により、退出してもらったり、以後の受講を認めないことがあります。
教科書	
参考書	「スケープゴーティング」　釘原直樹（編）　有斐閣

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	児童期の臨床心理学						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32060
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2〜3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童期の子どもの心についての理解の仕方を育むとともに，児童期における臨床心理学的なテーマや様々な困難さ・症状を学ぶ。
授業の概要	主に児童期を中心とした子どもの発達段階における心的状態やその変化についての知識を学ぶ。またその中で生じる様々な困難さを，子どもの視点に立って理解するという姿勢を養っていく。
到達目標	1. 児童期の子どもの心身の発達やそれに伴う心的状態の変化についての知識を得て，人に説明ができる。 2. 児童期の子どもの呈する心理症状や障碍（がい）についての知識を得て，人に説明ができる。 3. 映像や文学など様々な物を子どもの心的表現として考えるという視点を持つことができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子どもの心を理解するって？～ 第2回：子どもの心の探索　～私の中の子どもを見つめる～ 第3回：発達段階としての児童期①　～児童期ってなんだろう？～ 第4回：発達段階としての児童期②　～児童期の情緒発達～ 第5回：発達段階としての児童期③　～検査や研究法の視点から～ 第6回：幼児期と児童期との対比から見る児童期の心　～となりのトトロ～ 第7回：“発達障害”ってなんだろう①～“外”から見る自閉症～ 第8回：“発達障害”ってなんだろう②～“内”から見る自閉症～ 第9回：児童期の子どもを取り巻く環境①　～社会，学校～ 第10回：児童期の子どもを取り巻く環境②　～友人関係，家族関係～ 第11回：児童期における心的発達と危機 第12回：児童期の終りと思春期①　～千と千尋の神隠し～ 第13回：児童期の終りと思春期②　～魔女の宅急便～ 第14回：内なる子ども性と自己愛　～アナと雪の女王～ 第15回：振り返りと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して，参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに，子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／中間レポート（30%）／期末試験（40%） ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても，重要な内容は適宜紹介を行う。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	山中康裕（1978）少年期の心　精神療法を通してみた影. 中央公論新社.　ISBN：978-4121005151 岩宮恵子（1997）生きにくい子どもたち―カウンセリング日誌から（今ここに生きる子ども）．岩波書店.　ISBN：978-4000260626

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。 成人期・老年期に生じやすい心理学的問題を複数取り上げ、それらについて説明できる。 自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。
授業計画	#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 期末試験（86%）：到達目標の到達度を評価する。#15に解答例を配布する。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	生と死を学ぶ。
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪・事故、自殺など）、グリーフカウンセリング、末期患者と家族の心理、病名告知、ホスピス緩和ケアなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。
到達目標	(1) 生と死をめぐる問題について心理学的に考察し、説明することができる。 (2) 誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときどのようにすればよいか考えることができる。
授業計画	第1回：ストレス源としての死別体験 第2回：喪失と悲嘆に関する諸理論 第3回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第4回：悲嘆の複雑化と関連要因 第5回：さまざまな喪失(1)自然災害 ～子どもへの影響 第6回：さまざまな喪失(2)大規模事故・犯罪 ～二次被害 第7回：さまざまな喪失(3)自殺・ペットロス ～公認されない悲嘆 第8回：ケアを行う際の基本的姿勢 第9回：支援の方法 ～グリーフカウンセリング・複雑性悲嘆治療（実習を含む） 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者の心理と家族のケア 第13回：生命倫理 ～臓器移植 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や参考書を事前に熟読する。また、授業では小グループでの発表を予定しているので、各自が関心を持ったテーマについて調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。
授業方法	講義（実習を含む）
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	『死を学ぶ』柏木哲夫（著）有斐閣　ISBN4-641-07582-4
参考書	『「悲しみ」の後遺症をケアする―グリーフケア・トラウマケア入門』小西聖子・白井明美（著）角川学芸出版　ISBN978-4-04-651613-8 『悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ』坂口幸弘（著）昭和堂　ISBN978-4-8122-1015-4

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2〜3	単位数	2.0

授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めることを目的とします。 就労や恋愛など青年期に関連の深い課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。心理療法におけるそれらの課題への介入についても学びます。
到達目標	青年期にかかわる諸課題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。
授業計画	第 1回　あなたは大人？子ども？　～生涯発達における青年期～ 第 2回　反抗期は必要？　～青年期の親子関係～ 第 3回　結婚したい？したくない？　～青年期の恋愛・結婚(1)～ 第 4回　愛情という絆　～青年期の恋愛・結婚(2)～ 第 5回　愛情とその病　～DV・ストーカーの心理～ 第 6回　働くってどういうこと？　～青年期の就活・就職(1)～ 第 7回　楽しく働くには？　～青年期の就活・就職(2)～ 第 8回　働かないという社会参加　～ニート・ひきこもりの心理(1)～ 第 9回　生き方の多様性と社会の受容性　～ニート・ひきこもりの心理(2)～ 第10回　受容され難い存在と表現　～青年期の犯罪～ 第11回　うつと自殺　～青年期の精神疾患(1)～ 第12回　統合失調症　～青年期の精神疾患(2)～ 第13回　心理療法という関係性　～青年期の精神疾患(3)～ 第14回　調査実践課題発表 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1）授業内で実施したワークのまとめ発表用資料作成（90分×2回） 2）調査実践課題とその発表用資料作成（90分×2回） 3）授業内で紹介した文献購読とレポート作成（90分×2回） 4）「素材カード」作成（90分×4回） ※ 1）から 3）から１つ以上を選択、4）は任意選択とします。
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加・貢献、授業レポート）　40% 課題（1)授業内ワークのまとめと発表、2)調査実践とまとめの発表、3)レポート作成、4)素材カード）　30% 期末試験　30% ※ 課題については、1）から 3）から１つ以上を選択すること。4）は任意選択とします。
履修上の注意	授業で学んだことを、日常生活や学外実習での経験と結びつけ理解するように、また、新たな疑問をみつけさらに学びを深められるようにしてください。
教科書	なし。 毎回資料を配布します。※過去の資料はマナバから取得可能です。
参考書	授業内で紹介します。

-　　-　　-

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾　美月					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P12060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2〜3	単位数	2.0

授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がどきどきしたり，胃が痛くなったりする ということは，心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のどこにも存在しないのだろうか。 この授業では，心と身体の関係について，古典的ともいえる知見から，最新の脳科学研究の成果に至るまで， 数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに，心のありかについて自らの考えをまとめることで， 人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 心と身体の関係がわかる現象や具体例を挙げ，それを生理心理学的に説明することができる。
授業計画	第 1講　生理心理学とは 第 2講　脳　〜あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？〜 第 3講　視覚　〜なぜものが見えるのか〜 第 4講　顔認識　〜なぜアヒル口が流行ったのか〜 第 5講　知覚の統合　〜青い食べ物でダイエット？〜 第 6講　記憶1　〜記憶の亡霊〜 第 7講　記憶2　〜マインドマップを描こう〜 第 8講　知能　〜脳トレで頭が良くなる？〜 第 9講　発達　〜赤ちゃんはワンダーランド〜 第10講　感情　〜泣くから悲しい？〜 第11講　恋愛　〜愛は麻薬？それとも絆？〜 第12講　ストレス　〜癒しの脳科学〜 第13講　人間らしさ　〜脳の中のもうひとりの私〜 第14講　ココロとカラダ　〜心はどこにある？〜 第15講　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので，文献やインターネットを使って調べておく。 （学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり，紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。
評価基準と評価方法	平常点30%，試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については，その一部を翌週の授業で紹介・解説する。
履修上の注意	1. 基本的に，授業を聞きたい者にとって，邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが，空欄部分については各自で埋めること。
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究の実施及び論文の作成
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめる作業及び調査結果や成果の報告。
到達目標	自らの興味を調べるために実際に実験・調査を行うことができるようになる。 集めたデータを分析し、論理的に考察したうえで、卒業論文を執筆できるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第２回　研究計画の発表（１） 第３回　研究計画の発表（２） 第４回　実験・調査実施準備（１） 第５回　実験・調査実施準備（２） 第６回　実験・調査実施準備（３） 第７回　実験・調査の仮実施（１） 第８回　実験・調査の仮実施（２） 第９回　実験・調査方法の変更・改善（１） 第１０回　実験・調査方法の変更・改善（２） 第１１回　実験・調査の実施（１） 第１２回　実験・調査の実施（２） 第１３回　実験・調査の実施（３） 第１４回　データの入力と処理（１） 第１５回　データの入力と処理（２） 第１６回　データの入力と処理（３） 第１７回　方法、結果の発表（１） 第１８回　方法、結果の発表（２） 第１９回　論文執筆（序論１） 第２０回　論文執筆（序論２） 第２１回　論文執筆（序論３） 第２２回　論文執筆(結果１） 第２３回　論文執筆(結果２） 第２４回　論文執筆(考察１） 第２５回　論文執筆(考察２） 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。 自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では 行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。 授業前学習：論文検索、論文講読、資料まとめ作業（３時間以上）。 授業後学習：授業での発表時のコメントや意見を熟考し、資料の修正など次のステップに進む準備（２時間以上）。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（６０％）、最終論文（４０％） 授業態度：自主的に研究を進めていく態度・能力を総合的に評価する。 最終論文：最終的に提出された卒業論文を評価する。
履修上の注意	３年次の春休みの間にできるだけ作業を進めておくことを強く推奨する。 夏休み中に調査や実験を行う可能性あり。実験・調査実施場所への 交通費等は自己負担になる。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 ＊補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 ＊出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前・後に話をしに来ること。

教科書	適宜資料を配布
参考書	適宜資料を配布

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文執筆と研究発表
授業の概要	「心理学演習Ｂ」の内容を発展させ、卒業論文を完成させます。研究内容を発表し、共有します。
到達目標	研究内容を、学術論文、およびプレゼンにより明確に伝えることができる。 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究計画発表(1) 第３回　研究計画発表(2) 第４回　卒業論文執筆(1)　～論文の構成～ 第５回　卒業論文執筆(2)　～問題～　※個別指導 第６回　卒業論文執筆(3)　～問題～　※個別指導 第７回　卒業論文執筆(4)　～問題～　※個別指導 第８回　中間発表(1)　～問題～ 第９回　卒業論文執筆(5)　～方法～　※個別指導 第10回　卒業論文執筆(6)　～方法～　※個別指導 第11回　卒業論文執筆(7)　～方法～　※個別指導 第12回　中間発表(2)　～問題と方法～ 第13回　調査結果のまとめ(1)　～データの入力～ 第14回　調査結果のまとめ(2)　～データの分析～ 第15回　調査結果のまとめ(3)　～図表の作成～ 第16回　オリエンテーション 第17回　卒業論文執筆(8)　～結果～　※個別指導 第18回　卒業論文執筆(9)　～結果～　※個別指導 第19回　卒業論文執筆(10)　～結果～　※個別指導 第20回　中間発表(3)　～問題から結果まで～ 第21回　卒業論文執筆(11)　～考察～　※個別指導 第22回　卒業論文執筆(12)　～考察～　※個別指導 第23回　卒業論文執筆(13)　～考察～　※個別指導 第24回　中間発表(4)　～問題から考察まで～ 第25回　中間発表(5)　～問題から考察まで～ 第26回　卒業論文執筆(14)　～要約・全体の構成～　※個別指導 第27回　卒業論文執筆(15)　～要約・全体の構成～　※個別指導 第28回　卒業論文執筆(16)　～要約・全体の構成～　※個別指導 第29回　卒業研究発表(1) 第30回　卒業研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	卒業論文執筆（90分×30回） 発表用資料作成（90分×15回） 基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 研究テーマに関する文献にできるだけ多く触れてください。
授業方法	演習、個別指導
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献：50%、発表・提出物：50%
履修上の注意	「心理学演習Ｂ」の内容をさらに発展させる授業です。 学外見学・研修を行うことがあります。

教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての調査・実験等の研究を行い，その成果を卒業論文としてまとめ上げる。
到達目標	1. 自分自身の研究テーマについて，適切な方法を用いて研究を進めることができる。 2. 形式にのっとり，卒業論文を執筆することができる。 3. パワーポイント等を介して自身の研究成果を要約して他者に発表することができる。
授業計画	第1回：卒業研究テーマの最終検討① 第2回：卒業研究テーマの最終検討② 第3回：卒業研究テーマの最終検討③ 第4回：研究方法の最終検討と予備調査① 第5回：研究方法の最終検討と予備調査② 第6回：研究方法の最終検討と予備調査③ 第7回：データの収集と入力① 第8回：データの収集と入力② 第9回：データの収集と入力③ 第10回：データの収集と入力④ 第11回：データの収集と入力⑤ 第12回：データの整理と仮分析① 第13回：データの整理と仮分析② 第14回：データの整理と仮分析③ 第15回：データの分析① 第16回：データの分析② 第17回：データの分析③ 第18回：中間発表 第19回：論文の執筆①問題 第20回：論文の執筆②問題と目的 第21回：論文の執筆③方法 第22回：論文の執筆④結果 第23回：論文の執筆⑤結果と考察 第24回：論文の執筆⑥考察と引用等 第25回：卒業論文の初稿の提出 第26回：論文の修正① 第27回：論文の修正② 第28回：卒業論文の提出 第29回：卒論発表会（ゼミ内） 第30回：卒論発表会（学科内）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究を進めていくために必要な文献や調査を自ら調べて，理解してまとめるとともに，研究計画書や論文を書き進める（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，研究計画書や論文を収集するとともに調査活動を行う（学習時間：90分）
授業方法	ゼミ形式（必要に応じて個別に研究室にて発表を行い，指導を受けることを求める）
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／卒業論文（50%） ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習で取り上げた論文などを参考に、自らの研究をすすめるための指導を行う。具体的には、研究計画（テーマ、仮説、調査・実験方法など）を作成し，それについての発表、討論を行う。後半は、研究計画にしたがって、調査・実験を行い、各自の進行状況にしたがって、個別指導をする。最後に論文を仕上げ、提出する。
到達目標	現実の社会生活に生かせる卒業論文を作成することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，年間計画作成 第２回　文献検索（１） 第３回　文献検索（２） 第４回　研究計画の発表（１） 第５回　研究計画の発表（２） 第６回　質問紙，実験計画の作成（１） 第７回　質問紙，実験計画の作成（２） 第８回　質問紙，実験計画の発表と討論（１） 第９回　質問紙，実験計画の発表と討論（２） 第１０回　調査，実験の実施（１） 第１１回　調査，実験の実施（２） 第１２回　調査，実験の実施（３） 第１３回　データの入力と処理（１） 第１４回　データの入力と処理（２） 第１５回　データの入力と処理（３） 第１６回　論文執筆(方法１) 第１７回　論文執筆(方法２) 第１８回　論文執筆(結果１) 第１９回　論文執筆(結果２) 第２０回　方法，結果の発表と討論（１） 第２１回　方法，結果の発表と討論（２） 第２２回　論文執筆(問題１) 第２３回　論文執筆(問題２) 第２４回　論文執筆(考察１) 第２５回　論文執筆(考察２) 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中の討論の内容をまとめ，記録しておく。 自主的に卒業論文を書き進める。
授業方法	ゼミナール形式と個人指導
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）１００％
履修上の注意	発表の際には，ゼミ人数分のレジュメを用意すること
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	前年度の心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い、その成果を卒業論文として提出する。
到達目標	自らが関心のあるテーマについて、適切な方法で研究を進めることができる。 形式に則った卒業論文を作成できる。
授業計画	#01：卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02：研究テーマの最終検討① #03：研究テーマの最終検討② #04：データ収集法の検討① #05：データ収集法の検討② #06：データ収集法の検討③ #07：データの収集① #08：データの収集② #09：データの収集③ #10：データの収集④ #11：データの収集⑤ #12：データのまとめ① #13：データのまとめ② #14：データのまとめ③ #15：データの分析① #16：データの分析② #17：データの分析③ #18：中間報告 #19：論文執筆① #20：論文執筆② #21：論文執筆③ #22：論文執筆④ #23：論文執筆⑤ #24：卒業論文初稿の提出 #25：論文修正① #26：論文修正② #27：論文修正③ #28：卒業論文の提出 #29：卒論発表会（ゼミ内） #30：卒論発表会（学科）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度（50%）、および卒業論文（50%）。
履修上の注意	各自が主体的に研究および論文執筆に取り組むことを求める。 特に、質問紙調査や実験など統計処理を必要とする研究を行う場合には、あらかじめ必要な統計処理の内容について充分な学習をしておくこと。
教科書	なし。

参考書	指導の過程で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田　昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P42010
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティーでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴を説明できる。 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。
授業計画	第1回　非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回　姿かたちーなぜ様々な顔があるのか 第3回　姿かたちー顔立ちから性格はわかるか 第4回　姿勢としぐさー感情の伝達 第5回　姿勢としぐさー様々なしぐさ 第6回　表情ー表情とは何か 第7回　表情ー笑い 第8回　情動反応 第9回　目は心の窓 第10回 視線—動物における重要性、子どもの発達と視線 第11回 対人距離、行動観察 第12回 行動観察の補足と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 印象操作—服装・髪型 第15回 会話ー会話における非言語的コミュニケーションと達成度確認試験の解説 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間90分）。 特に関心を持った部分について参考書を読む（学習時間90分）
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価　５０％ 試験　５０％
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。
教科書	使用しない
参考書	Ｗｅｂ上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、 「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語的コミュニケーション」

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P23050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	SPSSを用いた，データの処理法の習得
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し，分析するための知識を習得することが，本講義の目的である．まず，受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し，分析モデルを立て，質問紙を作成する．尺度構成の方法についても習得する．次に，サンプルの調査データ（JGSS)を，受講生自身の問題意識にそって分析し，結果をまとめる．　また，多変量解析についても，JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する．
到達目標	質問紙データを適切な方法で分析，解釈，報告できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　質問紙調査の概要 第２回　質問紙調査の手順 第３回　質問項目の作成と尺度 第４回　データの入力と加工，JGSSデータについて 第５回　単純集計 第６回　グラフ 第７回　代表値とばらつき 第８回　複数回答データ 第９回　クロス集計と関連性を表す統計量 第１０回　統計的推定と検定の考え方 第１１回　適合度・独立性・比率の差の検定 第１２回　t検定と分散分析 第１３回　重回帰分析 第１４回　因子分析 第１５回　筆記試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書の該当部分を予習しておく。 授業中の課題を各自で再度，データ分析しておく。
授業方法	SPSSを用いた，実習を交えながらの講義 毎回，プリントを配布する。
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）30%，定期試験70%
履修上の注意	心理学科の専門科目の「心理学調査法」を履修していることを，履修の要件とする．
教科書	
参考書	岩井紀子・保田時男　「調査データ分析の基礎」　有斐閣

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学						
担当教員	福井　義一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43110
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	トラウマとトラウマが我々に対して及ぼす影響について理解する。
授業の概要	トラウマという言葉は，現在ではすっかり市民権を得たように思われるが，我々の社会において，トラウマやその影響についての理解が進んでいるとは言えない状況である。 本講義では，まずトラウマとPTSDについての概念を整理し，トラウマ概念の成立について述べる。続いて，トラウマになり得る事象とその影響について，数回に分けて講義する。さらに，トラウマ・ケアについて，伝統的な心理療法から，最新の立場まで概観する。
到達目標	トラウマの基礎的概念を理解し，トラウマ概念の成立について説明することができる。 トラウマになりやすい事象とその影響について理解し，簡単に説明することができる。 トラウマ・ケアの各技法について知り，簡単に説明することができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　トラウマとは何か？（PTSDの診断基準） 第3回　虐待とその影響 第4回　いじめとその影響 第5回　交通事故や強盗被害 第6回　自然災害とその影響 第7回　身近なトラウマ 第8回　喪失や死別体験とその影響 第9回　トラウマと解離（1）解離概念とその成り立ち 第10回　トラウマと解離（2）解離性障害の理解 第11回　伝統的な立場によるトラウマ理解とトラウマ・ケア 第12回　新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（1）：EMDRやTFT 第13回　新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（2）：Somatic Experiencing（野生動物はなぜ我々より危険な目に日々遭っているのにPTSDにならないか？） 第14回　新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（3）：自我状態療法（解離による自己の内部の分裂を癒やす） 第15回　新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（4）：その他の技法 注意：各下位のテーマは，授業の理解度や進み具合，興味関心により，順序を入れ替えたり，テーマの変更を行ったりする可能性があります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	特にないが，文学作品やマンガ，アニメ，映画などを見るときに，トラウマの影響について考えてほしい。
授業方法	基本的には講義形式で行う。
評価基準と評価方法	学期末レポート80%，授業中の小レポート20%で評価する。
履修上の注意	特になし。
教科書	特になし。
参考書	『トラウマの発見』森茂起著（講談社） 『トラウマ』宮地尚子著（岩波書店） 『EMDR革命:脳を刺激しトラウマを癒す奇跡の心理療法 生きづらさや心身の苦悩からの解放』タル・クロイトル著（星和書店） 『身体に閉じ込められたトラウマ：ソマティック・エクスペリエンシングによる最新のトラウマ・ケア』ピーター・A・ラヴィーン著（星和書店）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾　美月					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P12070
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	人の認知の特徴やしくみについて理解する。
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して，外界を，他者を，そして自分自身を認知している。 この授業では，認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって，「こころ」の不思議さを実感し， 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり， 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。
授業計画	第 1講　認知心理学とは 第 2講　知覚1　～知覚の不思議～ 第 3講　知覚2　～色の不思議～ 第 4講　知覚3　～三次元の世界～ 第 5講　記憶1　～自由再生の実験からわかること～ 第 6講　記憶2　～感覚記憶と短期記憶～ 第 7講　記憶3　～長期記憶～ 第 8講　問題解決　～サバイバルゲーム～ 第 9講　心の健康と認知1　～ストレスと認知～ 第10講　心の健康と認知2　～うつと認知～ 第11講　心の健康と認知3　～認知療法～ 第12講　社会的認知1　～アサーション～ 第13講　社会的認知2　～他者認知～ 第14講　まとめと試験 第15講　試験解説
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので，文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり，紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）
授業方法	講義形式で行うが，適宜，体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。
評価基準と評価方法	平常点30%，試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については，その一部を翌週の授業で紹介・解説する。 試験結果の講評は15講で行う。
履修上の注意	1．基本的に，授業を聞きたい者にとって，邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2．欠席時のプリントは再配布するが，空欄部分については各自で埋めること。
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1202A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（新生児～幼児期）
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
到達目標	生まれてから死ぬまでの人間の認知の変化について簡単に説明できるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　発達とは 2　発達の仕組みと様相 3　乳幼児発達心理学の研究法 4　遺伝と環境 5　胎児期・新生児期 6　乳幼児期の運動発達 7　乳児期～知覚 8　乳児期～素朴物理学と素朴心理学 9　乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え１前言語期 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え２言語期 12 幼児期～社会性の発達 13 幼児期～表象の獲得 14 まとめと試験 15 試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（１時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（２時間）。
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50%　期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。
履修上の注意	私語厳禁　（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 ＊補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 ＊出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1202B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（幼児期～成人期）
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして成人になってからの発達的変化を扱う。 本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。
到達目標	幼児期の心の理論や社会性、言語の獲得についての説明ができるようになる。 成人期までのの心理的・身体的な衰えを含む変化について説明ができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　これまでのおさらい 2　幼児期～言語の獲得 言語を獲得する準備 3　ことばと認知１語彙獲得の制約 4　ことばと認知２語用論 5　心の理論１他者理解の発達 6　心の理論２他者理解と抑制 7　児童期　認知発達 8　児童期　社会性発達 9　文化と発達１多言語の言語発達 10　文化と発達２外国の理解の発達 11　青年期　アイデンティティ 12　成人期　親になること 13　成人期　愛着 14　まとめと試験 15　試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（１時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（２時間）。
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50%　期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。
履修上の注意	私語厳禁　（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 ＊補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 ＊出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前・後に話をしに来ること。
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

-　-　-

科目区分	心理学科専門教育科目							
科目名	被害者支援の心理学							
担当教員	大和田　攝子						科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4		単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史 ～被害者はどのように扱われてきたのか 第3回：被害者の抱える心理的問題 ～二次被害とは 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：トラウマとPTSD 第7回：PTSDの心理療法 第8回：質疑応答と試験① 第9回：遺族の心理的問題と対応 第10回：性暴力被害者の心理的問題と対応 第11回：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第12回：ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第13回：援助者のストレスと対応 第14回：質疑応答と試験② 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。
授業方法	講義（実習を含む）
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。中間・期末試験の講評は翌週の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子（編著）誠信書房　ISBN978-4-414-40047-2

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	中山　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代の犯罪と非行について、心理学を活用して、実際に発生した事件を中心に学ぶ
授業の概要	現代社会における犯罪の発生数と治安の維持について学ぶ 高校生が起こした２つの殺人事件を通じて、障害とその処分結果に心理学的な考察を加える 死刑判決の存置と廃止について考える 心理学を用いた科学捜査について学ぶ
到達目標	新たに発生した犯罪の発生原因を推定できるようになる 犯罪の予防に関する意見を述べることができるようになる
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　我が国における警察組織、一般刑法犯の認知件数と検挙率の推移 第3回　非行少年の事例(1)　伊豆の国市事件：楽天のブログと事件に至る経緯 第4回　非行少年の事例(2)　不可解な動機 第5回　非行少年の事例(3)　豊川事件の精神鑑定の結果（障害と責任能力） 第6回　光市母子殺人事件(1)　事件の発生 第7回　光市母子殺人事件(2)　少年事件における無期懲役と死刑 第8回　光市母子殺人事件(3)　最高裁決定 第9回　死刑判決の存置と廃止についてグループワーク 第10回　心理学を用いた科学捜査(1)　ウソ発見　ポリグラフ検査の質問作成と生理反応 第11回　心理学を用いた科学捜査(2)　ポリグラフ検査の活用事例と証拠能力 第12回　心理学を用いた科学捜査(3)　犯罪者プロファイリングと地理的プロファイリング 第13回　非行少年の処遇(1)　少年事項の実態と家庭裁判所 第14回　非行少年の処遇(2)　児童相談所、少年院、少年鑑別所 第15回　総まとめとふりかえり
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義期間中に実際に発生した犯罪・非行について、新聞記事を整理しておく(新聞記事ノートを提出)
授業方法	講義形式 グループ討議
評価基準と評価方法	①　試験　60% ②　レポート　20% ③　グループワーク　10% ④　新聞記事シート　10%
履修上の注意	欠席は5回以内とする 遅刻、早退、私語を慎むこと 受講生からの質問は講義の開始前もしくは終了後に受け付けます
教科書	特に指定しない
参考書	基礎から学ぶ犯罪心理学研究法　福村出版 2018年　警察白書　犯罪白書

－　－　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学A						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学とは何か
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。
授業計画	#01：オリエンテーション　―　臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「臨床心理学」、#02は「精神分析」、など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 期末試験（86%）：到達目標の到達度を評価する。#15に解答例を配布する。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　　－　　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション ―臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。
授業方法	講義（実習を含む）
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に紹介する。